月　日 名前 ／100点

【答え】

【中3】国語 文章問題　物語文 3

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

最後の大会が終わった翌日、ぼくは部室の鍵を持って、二年生の佐伯を待っていた。次の部長は佐伯に決まっていた。鍵を渡すのが、部長としての最後の仕事だった。

佐伯は、一年生のころ、練習をよく休んだ。やる気がないのだと思っていた。ぼくは何度も注意した。きつい言い方をしたこともある。そんな佐伯を、顧問の先生が次の部長に選んだと聞いたとき、正直に言えば、納得がいかなかった。

部室のドアが開いて、佐伯が入ってきた。

「部長、話ってなんですか。」

「もう部長じゃないよ。」ぼくは鍵を差し出した。「これ、今日からお前が持つんだ。」

佐伯は鍵を受け取ると、しばらく手のひらの上で見つめていた。それから、ぽつりと言った。

「一年のとき、休んでばっかりで、すみませんでした。」

ぼくは驚いた。佐伯は、少し迷ってから続けた。家の事情で、あのころは弟の世話をしなければならない日が多かったのだという。誰にも言えなかった、と。

「でも、部長が毎回注意してくれたの、うれしかったんです。まだ部員として見てもらえてるんだって思えたから。」

ぼくは、何も言えなかった。注意しながら、ぼくは佐伯の事情を一度も聞こうとしなかった。先生はきっと、ぼくが見ていなかった佐伯を見ていたのだ。

「佐伯。」ぼくはやっと口を開いた。「来ない部員がいたら、まず理由を聞いてやってくれ。おれは、それができなかったから。」

佐伯は、鍵をにぎりしめて、うなずいた。

部室を出ると、グラウンドから一年生のかけ声が聞こえた。明日から、あの声を聞くのは佐伯だ。ぼくは振り返らずに、校門へ向かって歩いた。

（この問題のための書き下ろし）

問一　一年生のころの佐伯について、ぼくはどう思っていましたか。本文中から十字以内で抜き出しなさい。

やる気がない

問二　佐伯が一年生のころ練習を休んでいた理由を、本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

弟の世話をしなければならない日が多かった

問三　佐伯が、ぼくに注意されたことを「うれしかった」と言ったのはなぜですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　注意されることで、練習を休む理由ができたから。
イ　注意されることで、まだ部員として見てもらえていると思えたから。
ウ　ぼくに注意されることが、ほかの部員への自慢になったから。
エ　注意されたおかげで、弟の世話をしなくてよくなったから。

イ

問四　「先生はきっと、ぼくが見ていなかった佐伯を見ていたのだ」とありますが、どういうことですか。六十字以内で説明しなさい。

ぼくは佐伯をやる気がないと決めつけて事情を聞かなかったが、先生は佐伯の事情や本当の気持ちを分かっていたということ。

問五　ぼくが佐伯に「まず理由を聞いてやってくれ」と言ったときの気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　自分が部長としてできなかったことへの反省を、次の部長に託したいという気持ち。
イ　佐伯がまた練習を休むのではないかと、疑う気持ち。
ウ　自分の注意のしかたが正しかったと、佐伯に分かってほしい気持ち。
エ　部長の仕事が大変なので、早く引退できてほっとする気持ち。

ア

【中3】国語 文章問題　物語文 3　答えと解説

問一（二十点）　答え：やる気がない

解説：第二段落の「やる気がないのだと思っていた」が根拠。この思いこみが、先生の人選に納得できなかった理由になっている。

問二（二十点）　答え：弟の世話をしなければならない日が多かった

解説：第八段落が根拠。「誰にも言えなかった」ことが、ぼくの思いこみを生んでいた。

問三（二十点）　答え：イ

解説：佐伯の言葉「まだ部員として見てもらえてるんだって思えたから」が根拠。

問四（二十点）　答えの例：ぼくは佐伯をやる気がないと決めつけて事情を聞かなかったが、先生は佐伯の事情や本当の気持ちを分かっていたということ。

解説：直前の「注意しながら、ぼくは佐伯の事情を一度も聞こうとしなかった」が根拠。先生が佐伯を部長に選んだ理由に、ぼくが初めて気づいた場面。

採点のポイント：①　ぼくは佐伯を決めつけ、事情を聞かなかった　②

先生は佐伯の事情や本当の気持ち（部への思い）を分かっていた（二つそろって満点、一つなら半分）

問五（二十点）　答え：ア

解説：「おれは、それができなかったから」が根拠。自分の失敗を認め、それを次の部長への助言に変えている。